

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：35408

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00300

研究課題名(和文) 近世笑話本に関する総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive Study on Showa-bon of the Edo Period

研究代表者

島田 大助 (SHIMADA, Daisuke)

安田女子大学・文学部・教授

研究者番号：50351177

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：日本の江戸時代には、1200タイトル以上の笑話本が刊行された。これらの笑話本に所収される笑話は、浮世草子・滑稽本・川柳等、他ジャンルの作品及び落語等の話芸とも密接に関係している。笑話本は、江戸時代に生きた日本人の笑いを考える上で重要な情報を提供してくれる。重要な作品群である笑話本ではあるが、基本資料となる笑話本の書目年表については、1971年に宮尾しげを氏によって作成されて以降、検討が行われていなかった。

本研究では、宮尾氏が作成した笑話本の書目年表を基に調査を行い、1971年以降に発見され紹介された資料、今回取り組んだ最新の研究成果を踏まえて、新たな笑話本の書目年表を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

笑話本に所収される笑話は、日本人の笑いを検討する上で重要な資料となる。笑話は、江戸時代に出版された他ジャンルの作品に取り入れられている。現代に伝わる落語には、江戸時代の笑話が源流になっている演目が多い。こうした笑話がいつから存在し、その後、どのように受け継がれたのかについて整理しておくことは、日本人の笑いを理解する研究を行う上で重要である。

本研究では、1971年に宮尾しげを氏によって発表された書目年表を基に調査を行った。新資料、再版された作品等を、書目年表に加えることができた。本研究で取り組んだことは、人々の笑いについて行う研究の基本資料となる。

研究成果の概要(英文)：During Japan's Edo period, over 1,200 titles of Showa-bon (jest books) were published. The jokes featured in these books were closely related to other literary genres such as Ukiyo-zoshi (fiction of everyday life), Kokkei-bon (humorous books), Senryu (satirical haiku verse), as well as oral storytelling performances like Rakugo (comedic storytelling). Showa-bon provide valuable insights into the sense of humor prevalent among the people of that era. Despite their importance, the chronology of book titles of Showa-bon, which serves as the foundational resource, had not been updated since Mr. Shigewo Miyao created it in 1971. This study conducted an investigation based on the chronology of Showa-bon compiled by Mr. Miyao and incorporated newly discovered and introduced materials from the period after 1971, as well as the latest research findings. As a result, a new chronology of Showa-bon has been created, offering a fresh perspective on this important body of work.

研究分野：日本近世文学

キーワード：笑話本 噺本 新笑話本書目年表

1. 研究開始当初の背景

日本近世文学における笑話本(噺本ともいう。以下、本研究では笑話本と表記する)研究は、『噺本大系』『江戸小咄集成』等を使用して行われる。笑話本は近世期を通じて1200を超えるタイトルが刊行されているが、活字として紹介されているのは、その半数にも満たないのが現状である。

これら笑話本については、武藤禎夫氏、岡雅彦氏、宮尾與男氏、二村文人氏等の先学によって翻刻紹介された作品もあるが、その全貌は明らかにできていない状況にある。

早稲田大学をはじめ多くの大学・図書館が、所蔵する古典籍資料の公開を開始している。国文学研究資料館においても、新日本古典籍総合データベースの運用が始まった。これらインターネットを利用した情報の公開により、その情報を利用する利便性を高めていく必要がある。

笑話本の刊行状況については、朝倉夢声氏の『新修日本小説年表』、山崎麓氏の『改訂日本小説書目年表』を基に、宮尾しげを氏がまとめた「定本 笑話本・小話本 書目年表(一)(二)」(『江戸小咄集 1・2』1971年刊)が、現時点で最後の網羅的な研究となっている。宮尾しげを氏は、この書目について「今後も加筆訂正されてゆく可能性があると思うが、それは良本を照合してからのことで、以後の研究を待つことになる」と記す。実際、新出本の発見は続いており加筆訂正は必須の状況である。

武藤禎夫氏を中心に、笑話本の悉皆調査に基づく書目年表の刊行が計画されていたが、実現はしなかった。理由の一つとして、宮尾しげを氏旧蔵資料を中心に所蔵する夕霧軒文庫が、所蔵資料の非公開の方針をとっているためである。宮尾しげを氏によると所蔵本には、「題簽紛失のために、題名も年代の記載もでき得ないものが多い」と(『江戸小咄集 1・2』)とのことであり、これらの書籍の調査ができなければ、網羅的な研究にはならないとの判断があったという。

本研究課題の申請にあたり、夕霧軒文庫に対して引き続き調査の依頼を行っているが、非公開の方針は変わらないとのことである。夕霧軒文庫所蔵の笑話本については、宮尾與男氏の報告を待って、本研究の書目年表に加えることとする。

1971年以降、笑話本の網羅的な調査は行われてこなかった。滞っている笑話本の調査を、これ以上先延ばしすることは、近世文学研究および近世文化の研究の進展にとって不都合だと考え研究を開始した。

2. 研究の目的

今日、文学研究の状況は大きく変化しようとしている。各研究機関は所蔵する蔵書をWEBサイトで積極的に公開するようになった。また、国文学研究資料館が、国書データベースの運用を開始した。これに伴い、今後、古典籍資料の公開が飛躍的に増加すると考える。本研究は、これらの資料の内、笑話本に関する文献の発信拠点を目指す。

笑話本には、刊行時期を特定することが難しい作品も多く存在する。多くの情報を収集・研究することで、約半世紀にわたって滞っている笑話本研究に新たな一歩を踏み出す。

本研究は、1971年以降、滞ってきた笑話本に関する書目年表の改訂を第一の目的とする。改訂がなされた新笑話本書目年表は、単に年代の順序を示すものではなく、研究に必要とされる書誌情報および所蔵館のリストを含めたものになる。また、本研究の研究成果は、Web上で公開することを原則とする。研究機関が所蔵する資料をWEBサイトで公開する傾向が顕著になっている。これら所蔵館と連携し、本研究の研究成果発表のWebサイトから、所蔵館に直接アクセスできる環境を整える(ハイパーリンクを通じて関連サイト・ページへのアクセスを容易にする)ことで、利用者の利便性は飛躍的に向上する。

笑話本に記される笑話は、小説、俳諧、演劇および芸能に取り入れられている。最も基本となる情報を公開することによって、他ジャンルの研究にも資する。

本研究は、日本文学・日本文化の理解に多くの示唆を与える、非常に重要な研究である。これが本研究の目的である。

3. 研究の方法

「定本 笑話本・小話本 書目年表(一)(二)」に記載される笑話本について、国文学研究資料館のWebサイトおよび研究機関で公開されている資料を、検索機能を利用して調査を行う。

Webサイトで画像として公開されている資料の収集を行う。

～の作業により、刊行年が確定した笑話本については、新たに作成するWebページで「新笑話本書目年表」として公開する。

刊記未記載により刊行年が確定できていない笑話本についての研究を行う。

未翻刻の笑話本を翻刻し、報告する。

浮世草子作品を中心に笑話の要素が確認できるものを確認する。

大韓民国に所蔵される笑話本を確認する。

4. 研究成果

「定本 笑話本・小話本 書目年表(一)(二)」に記載される笑話本について、国文学研究資料館のWebサイトおよび研究機関で公開されている資料を、検索機能を利用して調査を行った。『戯言養気集』(刊行年未詳)から『寄合噺』(慶應頃刊行)までの作品について、書誌情報(画像含む)を確認した。この調査を通して寛延4年刊行『訳準開口新話』の書名が『訳準開口新話』であること、宝暦2年刊行とされる『開口新話』が寛政9年刊行の『訳解開口新話』であること等を確認した。また、安永8年の序を持つ『はつねまち』を発見した。今回の調査を通して、「定本 笑話本・小話本 書目年表(一)(二)」にある誤りを訂正することができた。

Webサイトで画像として公開されている資料の収集を行った。Web上に、同一タイトルの作品が複数公開されている資料については、刊記等に他の資料と違いがあるものを収集した。収集した画像には、同じ箇所乱丁が認められる笑話本もあり、従来知られていない再版本の存在を検討しなくてはならない。笑話本の画像の詳細な検討は、今後の課題としたい。

～ の作業により、刊行年が確定した笑話本については、Webページで「新笑話本書目年表」として公開する。本報告書作成時点では、試作版の公表にとどまっているが、準備が整い次第、調査結果を全て公開する。

刊記未記載により刊行年が確定できていない笑話本についての研究を行った。刊行年未詳であった『落噺京鹿子』の刊行年を、絵題簽、所収笑話、挿絵内に描かれる干支から、安永6年であることを確定した。『初笑初鯉』(安永5年刊行)については、『小噺再度目見得』『黄表紙總覽』に記載される内容に誤りがあることを指摘した上で、該書が国立国会図書館に所蔵されていることを確認した。この他にも東京都立中央図書館蔵の『夜明茶呑話』(安永4年刊行)が、書名未詳の笑話本であることも明らかにした。いくつかの作品については、刊行年・書名を確定することができたが、未詳の作品も多く残存する。今後も、調査研究を継続する必要がある。

未翻刻の笑話本については、小咄本『はつねまち』、絵入笑話本『軽口笑顔草』を翻刻し、紹介した。『はつねまち』は、書目年表・目録等に未記載の新出資料である。草双紙仕立ての笑話本に記される笑話から、18世紀後半には、他にも未発見の資料があると推定されるため、今後も調査を継続する必要がある。

浮世草子作品を中心に笑話の要素が確認できるものを調査した。井原西鶴、西村市郎右衛門、苗村丈伯、夜食時分、林義端、江島其磧、辻堂兆風子、落月堂操庵、都塵舎雲峰、市中散人祐佐、多田南嶺、高古堂主人、漁柳、鳥飼酔雅、寝惚先生の著作に笑話性があることを確認した。これらの作者と笑話の関係を考察する上で有益な情報を提供できると考える。

大韓民国に所蔵される笑話本を調査した。新型コロナウイルス感染症の影響で、調査箇所は限定されたが、ソウル大学中央図書館、高麗大学図書館、韓国国立中央図書館等に所蔵される資料を中心に調査を行った。調査結果は、「新笑話書目年表」で公開する。日本と東アジアの国々の笑話を比較検討する上で、有益な情報が提供できると考えている。

以上が、本研究で取り組んだ研究成果である。この調査により、「定本 笑話本・小話本 書目年表(一)(二)」には修正が必要な項目が複数あることが確認できた。また、未記載の資料も複数あるため、これらを加え、新笑話本書目年表で情報を提供していく。

本研究では、各研究機関が公開している情報を基に調査を進めたが、これらの書誌情報には、誤りがあることも複数確認した。笑話本の出版状況を明らかにするためには、今後も詳細な検討が必要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 島田大助	4. 巻 第24号
2. 論文標題 笑話本『軽口笑顔草』について 翻刻および解説	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鯉城往来	6. 最初と最後の頁 pp.135-145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田大助	4. 巻 第23号
2. 論文標題 『西鶴諸国はなし』「狐の四天王」試論 - 「狐の草子」・越後騒動などとの関係から-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『鯉城往来』	6. 最初と最後の頁 pp.1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田大助	4. 巻 第22号
2. 論文標題 「新出資料 笑話本『はつねまち』」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『鯉城往来』	6. 最初と最後の頁 pp.31-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐伯孝弘	4. 巻 67巻10号
2. 論文標題 多田南嶺『世間母親容気』論	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『日本文学』	6. 最初と最後の頁 pp.12-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井史果	4. 巻 71巻10号
2. 論文標題 十返舎一九の噺本にみる表現手法	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『日本文学』	6. 最初と最後の頁 pp.24-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田大助	4. 巻 第25号
2. 論文標題 『落噺京鹿子』刊年考 既存笑話の利用、絵題簽、挿絵を手がかりにして	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『鯉城往来』	6. 最初と最後の頁 pp.23-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 島田大助
2. 発表標題 『西鶴諸国はなし』巻三の六「八畳敷の蓮の葉」試論 『太平記』 『信長公記』との関係から
3. 学会等名 日本近世文学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 島田大助
2. 発表標題 『西鶴諸国はなし』に描かれる江戸城中の出来事
3. 学会等名 安田女子大学 日本文学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 島田大助
2. 発表標題 『西鶴諸国はなし』巻一の六「雲中の腕押」試論 越後騒動との関係から
3. 学会等名 東海近世文学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 島田大助
2. 発表標題 『西鶴諸国はなし』巻三の六「八畳敷の蓮の葉」試論 「安土宗論」・狩野派「戯画図巻」との関係から
3. 学会等名 東海近世文学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐伯孝弘
2. 発表標題 「近世怪異譚の多様性」
3. 学会等名 国際日本文化研究センター機関拠点型基幹プロジェクト「大衆文化の通時的・国際的研究による新しい日本像の創出」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐伯孝弘
2. 発表標題 近世前期怪異小説における蘇生譚の諸相
3. 学会等名 清泉女子大学人文科学研究所、同大学日本語日本文学科「日本文学と怪異」研究グループ共同開催 国際シンポジウム「日本文学における怪異 怪異譚を中心に」
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 島田大助他（島田大助、pp.63-95）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 安田女子大学日本文学科事務局	5. 総ページ数 309
3. 書名 安田文芸論叢 研究と資料 第四輯（島田大助「『西鶴諸国はなし』巻一の六「雲中の腕をし」試論 狩野派戯画との関係から」）	

1. 著者名 千葉 一幹、西川 貴子、松田 浩、中丸 貴史（佐伯孝弘、pp.192-193）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 266
3. 書名 日本文学の見取り図（佐伯孝弘「日本文学史を彩る（作った）名作・作家たち52 『好色一代男』」）	

1. 著者名 久保朝孝編、佐伯孝弘	4. 発行年 2021年
2. 出版社 武威野書院	5. 総ページ数 720
3. 書名 『源氏物語を開く』	

1. 著者名 鈴木健一編、藤井史果	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 285
3. 書名 『東海道五十三次をよむ』	

1. 著者名 松田浩、上原作和、佐谷眞木人、佐伯孝弘	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 古典文学の常識を疑う	

1. 著者名 知立市史編さん委員会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 知立市	5. 総ページ数 500
3. 書名 新編 知立市史 別巻 八橋編	

1. 著者名 佐伯孝弘、荒尾禎秀、島田大助、川上陽介、王國良、崔溶澈	4. 発行年 2023年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 312
3. 書名 『東アジアにおける笑話』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>新笑話本書目年表 http://ba.sozo.ac.jp/myama/kaken/</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐伯 孝弘 (SAEKI Takahiro) (40255956)	清泉女子大学・文学部・教授 (32632)	
研究分担者	山口 満 (YAMAGUCHI Michiru) (60413762)	豊橋創造大学・経営学部・教授 (33930)	
研究分担者	藤井 史果 (FUJII Fumika) (20828868)	富山大学・人文学部・講師 (13201)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関